㈶広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室報

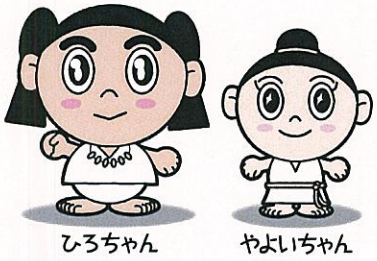
ひろしまの遺跡

第104号

丘陵に広がる縄文・弥生・古墳時代の集落跡

（庄原市　常納原遺跡）

縄文時代早期の押型文土器の底部。
ピットを確認した面から見つかった。



76,000㎡の丘陵には
ずいぶん長い間，
住んでいたんだね。

発掘調査速報

平成22年度に調査した
遺跡のうち,
4ヵ所を報告します。

常納原遺跡（庄原市西城町）

調査期間
〈第1次〉平成21年10月13日～12月16日
〈第2次〉平成22年6月7日～8月25日

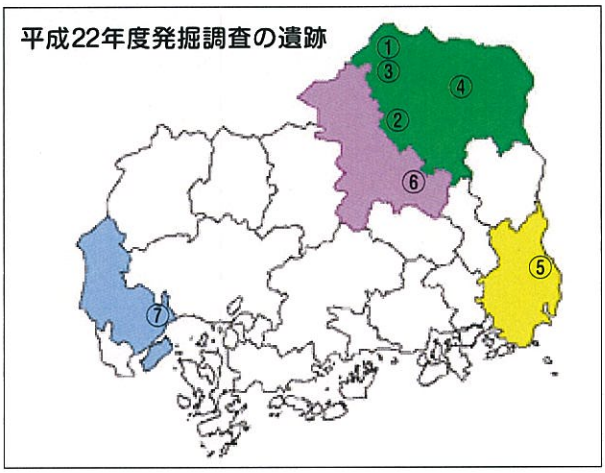
常納原遺跡は西城川東側の丘陵上に立地しています。丘陵は大正時代末～昭和時代初めに開墾が行われ,現在はほとんどが水田です。遺跡は試掘の結果,76,000㎡と広大なことが判明しています。発掘調査は,県営経営体育成基盤整備事業（農業生産法人等育成型）法京寺地区に伴うものです。

〈第1次〉

庄原市教育委員会と分担し,約2500㎡のうち1500㎡の調査を行いました。遺跡東部の調査区で古墳時代の竪穴住居跡6軒,掘立柱建物跡2棟などが見つかっています。竪穴住居跡には一辺6mの大型のものがあり,中央に長さ2.4m,幅1.4m,深さ0.5mの大きな土坑があります。土坑底面には焼土があり,火熱を受けて赤変した大きな石が2点出土していることから,工房跡と思われます。

竪穴住居跡から山陰型甑形土器や,4世紀から6世紀後半の土器が出土し,6世紀後半の方形の土坑（長さ5m以上,幅5m）から砥石,鉄鏃,鉄滓,鉄鉱石（12点,総重量7.5kg）が出土しています。周辺の遺跡で鉄生産が行われたことが推測できます。

常納原遺跡〈第1次〉
竪穴住居跡から出土した山陰型甑形土器



〈第2次〉

遺跡南端の7500㎡を調査し,中央部から北側でピット（柱穴状の小穴）が多数見つかり,南側では落とし穴2基のほか,密集した膨大な数のピット群を確認しています。ピット群が円形ないし方形の住居跡プランになるかは検討課題です。

遺物としては,縄文時代早期の押型文土器の底部,縄文時代の石鏃（黒曜石系と安山岩系の石材）2点,ピットから縄文時代とみられる土器片が出土しています。ピット内の埋土が5種類に分類できることから,ピット群は縄文時代を含めて5時期にわたると思われます。

この調査区北端に接する庄原市教育委員会の調査区から,3世紀後半の土器が出土しています。常納原遺跡は縄文時代早期･弥生･古墳時代の長期間営まれた集落跡と考えられます。（地図④）

常納原遺跡〈第2次〉
ピットは1000ヵ所にのぼる

半戸1号遺跡（庄原市高野町）

調査期間 平成22年4月12日～5月14日

半戸1号遺跡は,山塊（標高705m）から延びる尾根の緩斜面に位置します。遺構はすべて土坑で大小11基あり,平面は楕円形,円形,隅丸長方形をしています。深さは1.5～2mあり,うち2基の底面で,ピット(柱穴状の小穴)を確認しました。これらの土坑から遺物は出土していませんが,壁面が急角度でかなり深いことから,動物をつかまえるための落とし穴と考えられます。時期は,火山灰の堆積状況などから,縄文時代です。

落とし穴は等高線沿いや谷筋沿いに,4～6m間隔で配置されているほか,近接して対になるものもあります。当時の人々は,獣道を上手に見つけ,落とし穴を設けたとみられます。落とし穴の配置から,この場所は一時期ではなく,数時期にわたり猟場として使われたようです。猟場だとすれば,そう遠くない神野瀬川の両岸の台地あたりに,集落があった可能性が高いと考えられます。（地図①）

半戸1号遺跡
㊤尾根緩斜面に造られた落とし穴
㊦穴底にうがたれた柱穴状の小穴

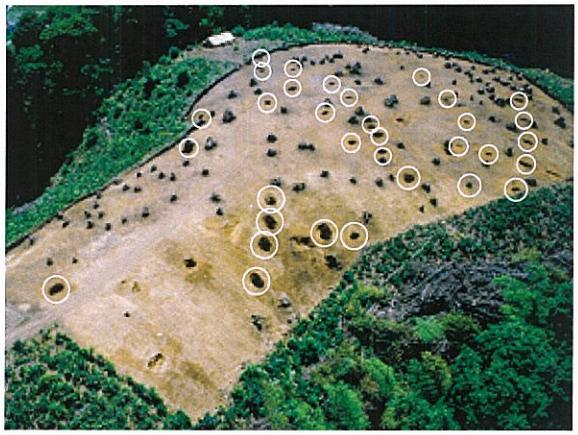
石谷2号遺跡〈第2次〉（庄原市口和町）

調査期間 平成22年4月12日～6月18日

石谷2号遺跡は,北から南に延びる低丘陵上(標高258～264m)にあり,麓には西城川が流れています。土坑が40基見つかり、うち37基は縄文時代の落とし穴と考えられます。1ヵ所の遺跡で確認された落とし穴としては県内最多です。

落とし穴の多くは等高線に沿うか,等高線をやや斜めに横切るように並んでおり,獣道を意識した配置です。平面形は隅丸長方形または楕円形で,落とし穴の列は4列あります。ある列の落とし穴は,縦120～140cm,横80～90cm,深さ80～120cmなど,列ごとに形や深さが統一されており,時期差をうかがわせます。このほか急斜面の落とし穴は,縦140～180cm,横125～170cm,深さ230～250cmと大型です。

多くの落とし穴の底には中央に径15～20cm,深さ15～25cmの小穴が一つあります。小穴から詰石と思われる5cm大の小石が出土した例もあり,穴を掘って先をとがらせた杭を上向きにして設置していたと推測されます。（地図②）



石谷2号遺跡
㊤丘陵上の多数の落とし穴（丸印）
㊦深い落とし穴

御領遺跡〈第3次〉（福山市神辺町）

調査期間　平成22年7月5日～9月21日

御領遺跡は高屋川などが形成した沖積平野に立地する縄文後期～中世の集落遺跡で，全国的にも有名です。この調査は国道313号道路改良工事に伴い，平成20年度から行っています。今年度（第3次）は，遺跡南西部に位置する東西2つの調査区を調査しました。

西調査区からは，溝5条，井戸1基を検出しました。このうち，当遺跡最大級の溝SD1（残存幅約6m，深さ約0.6m）は，昨年度の調査区の西端で検出した溝が南西方向に延びたものです。出土した土器から，弥生時代中期に造られ，数回の掘削を経て古墳時代に廃絶した灌漑用の溝と考えられます。井戸からは古墳時代初頭の土師器がまとまって出土しました。井戸を廃棄する際に投棄されたもので，井戸の廃絶に伴う祭りに用いられた可能性があります。

東調査区では，溝を3条，性格不明の遺構を1基確認しました。このうち溝SD6（幅3.1～3.5m，深さ約0.6m）の底部からは，大量の木材とともに杭が溝底に2本刺さった状態で出土しました。出土した須恵器から，古墳時代の溝と推測され，西調査区のSD1と同じように灌漑用の水路と考えられます。

（地図⑤）

御領遺跡
㊤残存幅6mの大溝（西調査区）
㊦井戸から出土した土器（西調査区）

平成22年度発掘調査一覧

	遺　跡　名	所　在　地	期　　間
①	半戸1号遺跡	庄原市高野町	4月12日～5月14日
②	石谷2号遺跡（第2次）	庄原市口和町	4月12日～6月18日
③	只野原2号・3号遺跡（第2次）	庄原市高野町	4月19日～11月19日
④	常納原遺跡（第2次）	庄原市西城町	6月7日～8月25日
⑤	御領遺跡（第3次）	福山市神辺町	7月5日～9月21日
⑥	海田原第24～27号古墳	三次市吉舎町	9月27日～12月下旬
⑦	廿日市町屋跡（第3次）	廿日市市廿日市	9月27日～12月中旬

※番号は2ページの地図番号と同じです。

高野小学校児童が遺跡見学

庄原市高野町の高野小学校5･6年生が,6月30日,町内の2遺跡を見学しました。国土交通省が進めている中国横断自動車道尾道松江線建設に伴い発掘調査した岡東古墳群と,調査中の只野原3号遺跡です。岡東古墳群では当調査室の職員が,尾根の地形を見ながら,7基の古墳(墳丘は調査後消滅)は,村を見下ろす位置に造られたと説明しました**(写真上)**。

この古墳から出土した遺物は整理中なので,同じ時代の口和町の古墳から出土した須恵器,勾玉,管玉,金環などを見学しました。

調査中の只野原3号遺跡では,職員が昨年度の調査で約3m掘り下げた土層のそばで,旧石器時代の三瓶浮布(さんべうきぬの)火山灰や姶良丹沢(あいらたんざわ)火山灰が堆積した様子,当時の人々の暮らしなどを話しました**(写真下)**。

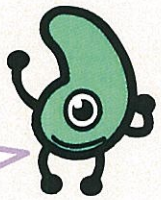
児童は見学で学んだことをもとに,遺跡のガイドブックと感想文集を手作りしました。そこには,火山灰が鹿児島県から飛んで来たことへの驚きや,落とし穴を見て「村人は一生けんめいになっていたんだ」,古墳があったことを知り「高野を大切にしようと思った」などの感動がつづられています。古里の大昔の歴史に触れた今回の見学は,児童に貴重な思い出となったようです。

見学会･報告会への参加ありがとうございました

御領遺跡(第3次)遺跡見学会(福山市神辺町)　溝(東調査区)
平成22年9月4日･参加者81人

常納原遺跡報告会(庄原市西城公民館)
平成22年9月12日･参加者60人

平成22年度「ひろしまの遺跡を語る ♀古墳時代の暮らしと心♂」を開催します



古墳時代の安芸・備後では,古墳にどんな葬送の精神が込められ,ムラではどんな生活をし,どんな祈りをしていたのでしょうか。「安芸」「備後」に国分けされる以前ですが,それらは地域の特徴を萌芽的に表しているのでしょうか。

近年の中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う広島県内の発掘調査では,古墳時代の社会や文化を探る重要な調査成果がもたらされています。また昨年来,空白地域だった広島県安芸高田市で前方後円墳が見つかり,広島県三次市では前方後円墳にもう一つ前方部が付いたような古墳も見つかっています。今回は,これらの考古学の最新情報も加え,新しい研究手法によって,発表・討議したいと考えます。

【日　程】　平成23年1月8日㈯　10：00～16：00（開場は9：30）
【会　場】　広島県民文化センター　多目的ホール　広島市中区大手町1-5-3

10：00～　研究発表Ⅰ「鉄が語るムラ」　主任調査研究員　岩本芳幸
Ⅱ「ものに託す願い」　調査研究員　山田繁樹
Ⅲ「土器副葬と死後観」　主任調査研究員　梅本健治

13：00～　基調講演「安芸・備後の古墳と古代国家形成」
岡山大学大学院教授　松木武彦氏

14：40～　シンポジウム「古墳時代の暮らしと心」
コーディネーター　広島大学大学院教授　古瀬清秀氏
パネラー　松木氏,研究発表者3人

※展示コーナー　関係出土品の見学は9：30～16：30

入場無料,申込不要

◎主催　財団法人広島県教育事業団
◎後援　広島県教育委員会,広島市教育委員会,
中国新聞社,NHK広島放送局

岡の段C地点遺跡の土製品（広島県北広島町）

※今年度の「中国横断自動車道尾道松江線建設事業に係る備北地域埋蔵文化財発掘調査報告会」を平成23年2月26日㈯,広島県立歴史民俗資料館（三次市小田幸町122）で開催します。詳細は,追ってチラシ,ホームページ等でご案内します。

㈶広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室報
ひろしまの遺跡　第104号

発行日　平成22(2010)年12月1日
編　集　㈶広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室
〒733-0036　広島市西区観音新町四丁目8番49号
TEL(082)295-5751
ホームページ　http://www.harc.or.jp
E-mail　maibun@harc.or.jp
発　行　㈶広島県教育事業団
印　刷　㈱インパルスコーポレーション